

写真：平成28年4月19日に、こぶしの里で行われたホタルの幼虫放流を終えた竹間沢小学校の児童たちと育成会の皆さん。小さなころから自然に触れ合うことができるのは、三芳町の魅力です。



オモイデヒカル。

ホタルの幼虫を沢に放流し、ひと仕事を終えた子どもたちの笑顔があふれる「こぶしの里」。

「ずっと未来に残したい、大切な故郷の場所。耳を澄ませば、小川の音が心を穏やかにし、手を広げれば、心地よい風が優しく包んでくれる、まるで高級リゾート地のような空間。」

ホタルが舞う公園が私たちの身近な場所であり、町外からも、観光スポットとして訪れるほど、魅力的な三芳町。地域の人たちの、

故郷への愛情や努力。

「竹間沢農地環境保全協議会」「竹間沢ほたる保存会」の皆さんたちの「想い」「思い出」。私たちが、こぶしの里でホタルの光を観ることができ、背景には、不断の努力があります。

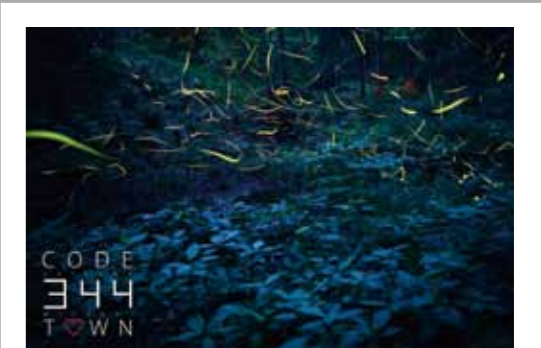
「早く大きくなって、元氣いっぱい飛んで、きれいな光をみせてね」と小分けにされた紙コップから旅立つホタルの幼虫を愛おしく見つめる児童たちの姿――。

その光景を見守る竹間沢ほたる育

成会の皆さんの表情は、ホタルが竹間沢に舞っていた、少年時代の思い出と重ね合わせているようでした。

5月下旬から6月にかけて、こぶしの里を舞うホタルの光は、幼虫の放流をした竹間沢小学校の児童や、地元愛を乗せて飛んでいます。こぶしの里を舞うホタルの光。その光は地域を愛する想いで光り、思い出を照らし、今年もホタルの光が、故郷のこぶしの里を灯してくれることでしょう。

—オモイデヒカル—



いいね三芳町

ホタルの最新情報や広報紙だけでは伝わらない旬な情報や話題、魅力などの情報はFacebookで配信中。Pinterestは「埼玉県三芳町」で。